



「夏祭りのつもりで開催している」と話す「スマッシュ」の日高正博代表＝東京都港区の事務所

15回目迎えるフジロック

「面白い音楽楽しんで」

主催社 日高代表 複数舞台で多彩に

29日から苗場

大自然を背景に国内外のミュージシャンが競演する「フジロック・フェスティバル」が29〜31日、湯沢町の苗場スキー場で開催される。柔軟なプログラム編成やエコロジーの視点を打ち出したユニークな運営方針で知られ、今回が15回目。夏の

文化イベントとして定着した感もある同フェスを主催する「スマッシュ」の日高正博代表に聞いた。1997年に山梨県で開いたのが最初。2回目は東京都内で開催され、3回目から現在の苗場スキー場に移した。広大なロケーションを生かし、複数のステージを設置しているのが特徴で、観客が自分の好みに合うプログラムを組むことができる。「お客さんが選びや

すいよう、なるべく選択肢を増やしている」
今回もYMOや岡林信康、加藤登紀子ら200組以上のミュージシャンが参加。ジャンルもロックに加え、ジャズ、ブルース、民族音楽など多彩なラインアップ。「大事なのは自分なりの情熱で表現できているかどうか。要はハートの問題で、ロックだとかのカテゴリは必要ない。何でもありだし、世の中にはもっと面白い音楽があることも知ってほしい」と言う。
15年の歴史は「二年一年の積み重ね」と話すが、回数を重ねたことで新たな夢も生まれた。それは「1週間ぶつ続けのフェスティバル」。月曜日から木曜日までアマチュアが参加し、残りの3日間を現行の形で開催する。日本では例のない「長期滞在型イベント」を実現し、「ゆとりのない日本人のライフスタイルが変わるきっかけになれば」と意気込む。